



Making History

International Impact Issues

地球と人類の諸問題を考える

Hiromi Ehara

Morio Okatsu



NAN'UN-DO

Acknowledgments

Reprint copyright materials are detailed as follows:

"World War, Cold War Won. Now, the Gray War" by David Von Drehle from *Washington Post* September 12, 2001. Permission by The Washington Post.

"State of the Village Report" by Donella H. Meadows. Permission by Sustainability Institute.

"The Obligation to Endure" from *Silent Spring* by Rachel Carson. Permission by Viking Penguin a division of Penguin Group Inc. through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

"Growing More Food with Less Water" from *Scientific American: Feature Article* by Sandra Postel. Copyright ©February 2001 by Scientific American, Inc. All rights reserved.

"The Challenge of Famine: Recent Experience, Lessons Learned" by John Osgood Field. Permission by Kumarian Press.

"Preface" by Peter Piot from *Report on the global HIV/AIDS epidemic*—June 2000. Permission by UNAIDS.

Reprinted from *Poverty, Progress and Development* edited by Paul-Marc Henry. Permission by Kegan Paul Limited.

"Information Technology and Global Capitalism" by Manuel Castells. From *On the Edge* edited by Will Hutton and Anthony Giddens. Permission by Jonathan Cape through The English Agency, Tokyo.

"Education Policy Analysis: Education and Skills" © OECD 2001. Permission by Random House through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

"This New Economy" from *The New Rules for The New Economy* by Kevin Kelly. Copyright © 1998 by Kevin Kelly. Used by permission of Viking Penguin, a division of Penguin Group (USA) Inc. through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

"The Global Media Giants" by Robert W. McChesney. From *Extra!* Nov. Dec. 1997. Published by Fair. Permission by Fair through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

Lipman-Blumen, Jean. *Gender Roles & Power*, 1st Edition, © 1984. Reprinted by permission of Pearson Education, Inc., Upper Saddle River, NJ. through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

"Will the Nation-States Survive Globalization?" from *Foreign Affairs*, January/February 2001 by Martin Wolf. Reprinted by permission of FOREIGN AFFAIRS, January/February 2001 issue. Copyright © by the Council on Foreign Relations, Inc. English language textbook with Japanese annotations rights arranged with Foreign Affairs, New York through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo.

"World Development Report 1997" by World Bank. Permission by World Bank through Oxford University Press.



○ 英語を学ぶ理由 ○

私たちはなぜ、英語を学ぶのだろうか。

英語によらず、学ぶことは、人間の重要な特徴の一つである。パスカルの「人間は考える葦である」という言葉によるまでもなく、高度な思考が人間を人間たらしめるものだとすれば、「学ぶ」ことの真の意義は「考える」ことを可能にかつ豊かにすることの中にある。学ぶことは知識の増加のみに限定されるものではなく、それによって「考える」ことが重要な部分であり、しかもそのことが行動の変化という可能性を生じさせる。

外国語の学習は、この点に関してその意義を見過ごされてきたと私たちは考える。外国語を学ぶことは往々にして、コミュニケーションの手段としての有用性を強調されるにとどまり、それが持つ思索能力の育成への効果に言及がされることは少なかった。しかし、外国語の学習とは聞く、話す、読む、書くが分離されてそれぞれ別に訓練されるものというより、未知の言語という抽象的記号の操作を通じて、そこから意味を引き出す非常に高度な総合的学習活動であり、新たな思考経路の構築を促すものだと考えられる。

そうした思考経路が私たちの内部に養われていくことのメリットは非常に大きい。まず、その体系を通じてコミュニケーションが可能となる。人間同士の対話はもちろんだが、読むことを通じて、様々な言語の持つ異なる文化の集積に直接にアクセスすることができる。また、異なる言語文化の知識は自らの言語文化を相対化し、客観的に見る視点を与えてくれる。同時に、そうした知識や思考経路を吸収形成していくこと自体が、楽しいプロセスである。さらに重要なことは、このようなプロセスを通じて私たちは「考える力」を深めていくことが出来るということである。

この意味で、外国語を学ぶことを、現在の環境に順応するための強制された学習から、私たち自身の意識変化を生み出す可能性の一つとして位置づけし直すべきだと私たちは考えている。

○ 読むことの効果 ○

上のような立場から見ると、「読む」ということは「考える」力を養う学習をする上で最も効果的なものであると考えられる。

「読む」ことはそれ自体言語を使っていることに他ならないが、同時にそれは非常に能動的な精神活動である。自分一人だけで秩序だった思考を継続することは難しいが、「読む」という行為に関わっている間、人はそのことを自然に達成している。読むことは一人で出来る内面的な会話である。読書が奨励されるのは、多くの書物に記述された内容を身につけるためだけではなく、読むことによって考える力そのものを養うことが出来るからである。

英語を読む場合は、語彙そのものや構文に関する知識の蓄積が母語のそれと比べて少ないために、そのプロセスが容易でないということはあるにせよ、内容の理解を目的とすることは同じである。理解への負荷が大きいことは、読む人間が学習の停止を選択するのでない限り、思考の力を増すものでこそあれ、学習の効果を減ずるものではない。むしろ、様々な角度から内容の再構築を試みることで、思考の促進につながると考えられる。

○ 和訳をしないということ ○

「読む」（内容を理解すること）と「英文和訳」とは別物である。

日本では英語を読むということと「英文和訳」ということがしばしば同一視されている。しかし、和訳は内容を理解するための手段に過ぎないはずである。それが自己目的化してしまうと、英語を日本語に置き換えることだけに注意が集中し、内容の理解につながらないおそれがある。英語の内容がそのまま直接に理解されるようになることが望ましい。通訳や翻訳というような特殊な場合を除いて、日本語に訳すことが読むことの目的ではないのである。

日本語に置き換えるプロセスは、実際に英語を使用する場合においては足かせになることが多い。伝えるべき情報に応じて合目的に形成されている原語を、別の思考経路を持つ言語を介在させて理解することは、本質的に効果的ではない。先に述べた「読む」ことによる積極的な思考の実践が、和訳という作業に置き換えられることによりかなり失われるという弊害もある。採点や評価のために英文和訳が用いられること、模範解答を求めることが、ものを読むことの喜びや効果を失わせる、本末転倒な結果を呼び起こさないようにすべきである。

このような点から考えて、辞書を使うことは出来るだけ少なくし、わからなくても出来るだけ全体を読んで内容の把握に努めること、推理して読むことを勧めたいと思う。



本書の使い方

○ 設問の役割 ○

本書における設問とは、水の流れていえば水門である。

設問は、内容を理解し、考えを深め、出来れば複数の人間の間で話し合いをするためのきっかけとして設けられている。内容を把握するヒントとして、またそこから思考を発展させるための足場として、思考という水の流れに強弱をつけ、あるいは調整したり、水流の方向を変化させたりすることを目的にしている。従って、設問を一通り読んでから英文を読むことも、ポイントを明らかにし、推理して読むということのために有効であろう。

「訳せ」という問題がいくつもあるのは、文中で重要な部分であるところを、注意し、深く理解して欲しいためである。その種類は大体二つあり、英語特有の表現や言い回しが用いられていて言語的知識として意味のある場合であり、もう一つは本文の趣旨を端的に示しており、内容理解の上で重要である場合である。中には「意識」を求めているものもある。これは内容から訳を創り出す、あるいは原文の精神を、違う原語を自由に使って再生することを求めているのであり、創意を働かせて頂きたい。

またグループで学習しているような場合があれば、これらを元に互いの意見を交換することにより、気づかなかったことを発見したり、考えを深める機会にしていただければ幸いである。

○ 解説文（各ユニットのフロント部分）の役割 ○

解説文は、いわば航海の水先案内である。

それぞれの具体的な主題について、その鳥瞰図的な視野を与えるとともに、本文の背景、文脈の一部を提示することにより、精神的なウォームアップを助けることをその目的としている。先に述べた、推理して読むための、いわば地図に該当するようなものであり、これから水面を航海するための方向を示している。気楽に読み、関心が生まれれば、提示してあるリソースなどにあたって頂ければと思う。知らなかったことを発見し、知識を広げるためのちょっとしたヒントにでもなれば嬉しく思う。

TABLE OF CONTENTS

はしがき 3

本書の使い方 5

Unit 1 Human Rights 9

The Unanimous Declaration of the Thirteen United States of America
Universal Declaration of Human Rights

Unit 2 Peace 13

Constitution of the United Nations Educational, Scientific and Cultural
Organization (UNESCO)

Unit 3 War 17

David Von Drehle, "World War, Cold War Won. Now, the Gray War,"
in the *Washington Post*, September 12, 2001

Unit 4 Earth 21

Donella H. Meadows, "State of the Village Report."

Unit 5 Environment 25

Rachel Carson, *Silent Spring*, first published by Houghton Mifflin in
1962.

Unit 6 Water 29

Sandra Postel, "Growing More Food with Less Water," in *Scientific
American*, February 2001

Unit 7 Famine 33

John Osgood Field, *The Challenge of Famine: Recent Experience,
Lessons Learned*, Kumarian Press, 1993.

Unit 8 HIV/AIDS 37

"UNAIDS: Report on the global HIV/AIDS epidemic," June 2000.

Unit 9	Poverty	41
	Paul-Marc Henry(ed), <i>Poverty, Progress and Development</i> , Keagan Paul International/UNESCO, 1991.	
Unit 10	Technology	45
	"Information Technology and Global Capitalism." By Manuel Castells.	
Unit 11	Education	49
	OECD (2001) "Education Policy Analysis: Education and Skills."	
Unit 12	New Economy	53
	Kevin Kelly, <i>The New Rules for The New Economy</i> .	
Unit 13	Media	57
	Robert W. McChesney, "The Global Media Giants." in <i>Extra!</i> Nov/Dec 1997.	
Unit 14	Gender	61
	Jean Lipman-Blumen, <i>Gender Roles and Power</i> .	
Unit 15	Globalization	65
	"Will the Nation States Survive Globalization?" By Martin Wolf in <i>Foreign Affairs</i> Jan/Feb 2001	
Unit 16	Refugees	69
	UNHCR Mission Statement	
Unit 17	Nation-States	73
	World Bank "World Development Report 1997,"	

人権は、今日の人類社会で、広く認められた普遍的価値である。また、人権は、近代民主主義国家の存在理由かつ統治理念であり、歴史上最も重要な観念のひとつといっても過言でない。本書で用いる文献は、基本的人権、近代民主主義の出発点とも言える、アメリカ合衆国独立宣言と、人権の国際的確認ともいべき世界人権宣言である。

人権とは、国家権力、あるいは社会の合意などによって人に与えられるものではない。独立宣言によれば、「人は皆、平等に作られ、創造主によってある種の奪われざるべき権利を与えられている」のである。すなわち、人は生まれながらにして人権を享有している。それは天賦の権利であり、神ならぬ人がそれを奪うことは許されない。さらに、天賦の権利である人権は、身分、地位、宗教、人種などの違いにかかわらず、万民に等しく与えられている。これが「人は皆平等」であることの根拠であり、社会的、その他の差別が人権侵害であることの所以である。独立宣言は続けて、「これらの権利は、生命、自由、そして幸福の追求を含む」とした上で、「これらの権利を保障するために人々は政府を作るのであって、その正当な権限は、被統治者の同意に由来する」と述べている。すなわち、政府または国家とは、人権を保証するための自治体に他ならない。ここにあらわされているのは「社会契約論」であり、またこれが近代民主主義の基本理念である。

人権を護ることがその目的である以上、国家は憲法によって人権を保障し、さらにその権限、制度を合目的的に規定しなければならない。これが「法の支配」の理念であり、また憲法が「人権の法」といわれる所以である。この原則は、立憲民主主義を採択する国家の増加とともに広がっていく。国連による世界人権宣言の採択の背景には、民主主義を認めない枢軸国が犯した著しい人権侵害が第二次世界大戦の要因の一つであったという反省があった。人権の保障が、世界平和の実現に必要であるという認識が見られる。同時に、世界人権宣言は、国連憲章下の世界で人権が普遍的な価値を認められたことを示すものである。

人権の侵害はさまざまな形で生じ、またどのような社会も人権を完全に護ることは不可能であろう。しかし人権を護ることを目的として創られた社会と、それ以外の目的で作られ維持されている社会との差は決定的である。これ以上の格差があるだろうか？

1. The Unanimous Declaration of the Thirteen United States of America

When in the Course of human events, it becomes necessary for one people to dissolve the political bands which have connected them with another, and to assume among the powers of the earth⁽¹⁾, the separate and equal station to which the Laws of Nature and of Nature's God⁽²⁾ entitle them, a decent respect to the opinions of mankind requires that they should declare the causes which impel them to the separation⁽³⁾.

We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator⁽⁴⁾ with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness. That to secure these rights, Governments are instituted among Men, deriving their just powers from the consent of the governed. —That whenever any Form of Government becomes destructive to these ends, it is the Right of the People to alter or to abolish it, and to institute new Government, laying its foundation on such principles⁽⁵⁾ and organizing its power in such form, as to them shall seem most likely to effect their Safety and Happiness.

(1) to assume among the powers of the earth; この世の権力の内に、諸国民の間に

(2) Laws of Nature and of Nature's God; 自然の法と自然の神の法

(3) impel them to the separation; 分立（独立）を余儀なくされる

(4) their Creator; 造物主、神（大文字であることに注意）

(5) laying its foundation on such principles; そのような原則に基礎を置いた



2. Universal Declaration of Human Rights

PREAMBLE

Whereas⁽¹⁾ recognition of the inherent dignity and of the equal and inalienable rights of all members of the human family is the foundation of freedom, justice and peace in the world,

Whereas disregard and contempt for human rights have resulted in barbarous acts which have outraged the conscience of mankind, and the advent of a world in which human beings shall enjoy freedom of speech and belief and freedom from fear and want⁽²⁾ has been proclaimed as the highest aspiration of the common people,

Whereas it is essential, if man is not to be compelled to have recourse⁽³⁾, as a last resort, to rebellion against tyranny and oppression, that human rights should be protected by the rule of law,

Whereas it is essential to promote the development of friendly relations between nations,

Whereas the people of the United Nations have in the Charter reaffirmed their faith in fundamental human rights, in the dignity and worth of the human person and in the equal rights of men and women and have determined to promote social progress and better standards of life in larger freedom,

Whereas Member States have pledged themselves to achieve, in co-operation with the United Nations, the promotion of universal respect⁽⁴⁾ for and observance of human rights and fundamental freedoms,

Whereas a common understanding of these rights and freedoms is of the greatest importance for the full realization of this pledge,

Now, Therefore THE GENERAL ASSEMBLY proclaims THIS UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS as a common standard of achievement for all peoples and all nations, to the end that every individual and every organ of society, keeping this Declaration constantly in mind, shall strive by teaching and education to promote respect for these rights and freedoms and by progressive measures, national and international, to secure their universal and effective recognition and observance, both among the peoples of Member States themselves and among the peoples of territories under their jurisdiction.

(1) Whereas; 後に続く文章を受けて、「～であるので」と訳す。

(2) freedom of speech and belief and freedom from fear and want; 言論と信仰の自由、及び、恐怖と欠乏からの自由、of と from の使い分けに注意。

(3) man is not compelled to have recourse; 対抗手段を持っていないこと

(4) universal respect; 普遍的な尊重



● ● Comprehension Check ● ●

(アメリカ独立宣言)

① We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.

訳せ。この部分を読んだ感想を述べよ。

② pursuit of Happiness はしばしば「幸福追求権」と称される。これを「幸福になる権利」と解釈することは可能か？ この2つはどう違うか？

③ That to secure these rights, Governments are instituted among men, deriving their just powers (1) from the consent of the governed (2).

(1) どのような powers がこれにあたるか？

(2) the governed とは何者か？

④ That whenever any Form of Government becomes destructive to these ends (1), it is the Right of the People to alter or abolish it (2), and to institute new Government, laying its foundation on such principles (3)...

(1) これはどういうことか？ these ends が指しているものを説明せよ。

(2) このことを、法に従って平和的に達成できるシステムが民主主義だ、という見解がある。論評せよ。

(3) どのような原則か？

(世界人権宣言)

⑤ Whereas recognition of the inherent dignity (1) and of the equal and inalienable rights (2) of all members of the human family is the foundation of freedom, justice and peace in the world,

(1)、(2)を訳せ。アメリカ独立宣言と比較し、その類似性を指摘せよ。

なぜ、(1)、(2)を認めることが、自由、正義、平和の基礎であるのか？

⑥ Whereas it is essential, if man is not to be compelled to have recourse, as a last resort, to rebellion against tyranny and oppression, that human rights should be protected by the rule of law,

この部分に対応する文節をアメリカ独立宣言の中から指摘せよ。「法の支配」とは何か？ 人権を守るという目的に則して、「法による支配」との対比を用いて説明せよ。

⑦ 人権という観念の成立とその認知が人類の歴史に果たした役割は何か？ もしそれがなかったら、世界はどうなっていたか？ 自由に論ぜよ。